

# 社会福祉施設の転倒災害防止



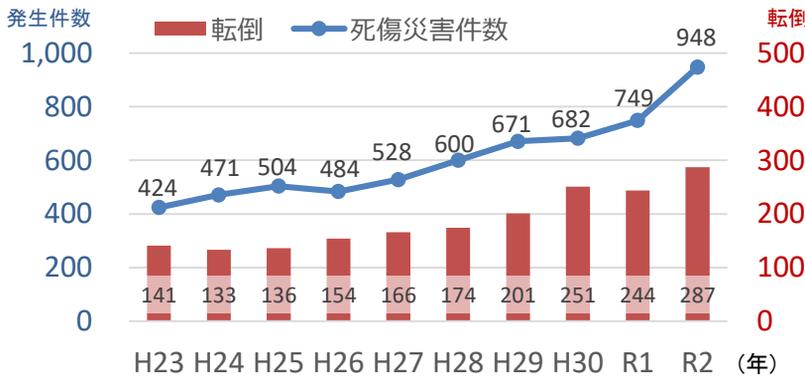
今日も一日ご安全に

大阪における令和2年の休業4日以上死傷災害8,726件のうち2,095件が転倒災害となっています。

また、社会福祉施設においては、休業4日以上死傷災害948件のうち、転倒災害が287件発生しています。なお、転倒災害の約7割が休業30日以上となっています。

死傷災害は、新型コロナウイルス感染症の罹患による労働災害の発生も相まって大幅に増加、転倒災害は高止まりしています。

社会福祉施設 休業4日以上死傷災害件数（労働者死傷病報告より）



## 災害事例（転倒災害）

- ・居室から廊下に出た際、床が清掃後で濡れており転倒した。
- ・トイレにおいて、利用者に突然前から押され、転倒した。
- ・浴室の溝掃除で、蓋が開いており、その蓋につまずいて転倒した。
- ・脱衣所でモップ引きをしたが、残っていた水に滑って転倒した。
- ・配膳中、食器乾燥機の電源コードにひかかり転倒した。
- ・馬の遊具を使用した集団遊び中、バランスを崩して転倒した。
- ・利用者が転倒しそうになり、支えようとしたところ一緒に転倒した。
- ・両手に道具を持って階段を降下中、階段を踏み外して転倒した。
- ・来客があり、急いで対応しようとしてバランスを崩して転倒した。
- ・夜勤で室内が暗かったのでバランスを崩して転倒した。

## 転倒災害防止対策のポイント

- 床清掃後は、確実な拭き取りを実施すること。
- 水を使う作業場所では、耐滑性のある作業靴を履くこと。（耐滑性の靴は、水だけではなく、踏ん張りも効くので、バランスを崩したときにも効果がある）
- 施設内は急いでいても、走らないこと。
- 両手に荷物を持っての歩行は、バランスを崩しやすいので、階段では禁止すること。
- 通路、作業場所に適切な照度を確保すること。
- 電気のコードの配線処置を確実にすること。
- 利用者への意識集中により周りが見えなくなることから、忙しい時ほど落ち着いて作業すること。
- 利用者の不意な動作による介助中での転倒災害対策は、過去の施設内での事例収集を行い、情報を共有し、介助中の危険予知を行い、事故があるかもしれないと身構えることが必要であること。



労働災害を防止するため、大阪労働局 安全課が作成したリーフレットです。作業の方が見える場所に掲示をお願いします。

## 転倒災害の特徴

- 転倒災害は、災害の種類別で最も多い労働災害！
- 休業1か月以上が6割超！
- 死亡災害も発生しています！
- 特に高齢者で多く発生！

## 転倒による死亡災害事例

平成30年6月 男性 60歳代

デイサービスの利用客を各自宅へ迎えに行くため、駐車場へ車をとりに向かっていたところ、スロープ（傾斜角10度）において転倒した。

転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも似たような危険はありませんか？



令和2年 転倒災害での休業日数別割合

